

令和3年度 放課後等デイサービス
事業所における自己評価結果(公表)



公表:令和 4 年 4 月 22 日

事業所名 sakura

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	8 (100%)		10名定員に対し54㎡の指導訓練室があり、ゆとりがある	
	2 職員の配置数は適切である	8 (100%)		児童指導員加配加算を算定しており、その人員以上のスタッフが1日に支援している	
	3 事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされている	8 (100%)		車いす対応で段差はなくスロープ、トイレ内の介助バー、背もたれ、手すりを備え付けている	
業務改善	4 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	8 (100%)			
	5 保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	8 (100%)			
	6 この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開している	8 (100%)			
	7 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている		8 (100%)		現在、利用者と事業所内の評価のみとなっておりますが、今後依頼を予定しております。
	8 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8 (100%)		利用者の来所されていない時間を使い事例検討を含め研修を計画的に行っている	
適切な支援の提供	9 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成している	8 (100%)			
	10 子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用している		8 (100%)	標準化されたアセスメントツールはないが観察、ADL評価は適宜FIMを使用している	
	11 活動プログラムの立案をチームで行っている	8 (100%)			
	12 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8 (100%)		定期的な評価を行い現在の課題、将来的な予測を立てながらプログラムの選択を行っている	
	13 平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援している	8 (100%)			
	14 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成している	8 (100%)		母親からの聞き取り、実際の評価をもとに個別での練習をしたり、集団を用いたコミュニケーション技能の向上に努めている	
	15 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8 (100%)		個別支援計画を基にその日の支援内容を話し合い確認をしている	
	16 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している		8 (100%)	支援終了後ではないが随時報告、共有を行っている。伝達ノートを使用し、情報共有を行っている。	
	17 日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8 (100%)		振り返りが出来るようその日の反応、主観的評価、客観的評価、今後の計画についてSOAP法で記載している	
	18 定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断している	8 (100%)			
	19 ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っている	8 (100%)			

関係機関や保護者との連携	20	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	8 (100%)			
	21	学校との情報共有(年間計画・行事予定等の交換、子どもの下校時刻の確認等)、連絡調整(送迎時の対応、トラブル発生時の連絡)を適切に行っている	8 (100%)		前の月に予定表を配布し、保護者、学校より情報を共有している。変更があればその都度連絡を取り、調整を行っている	
	22	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えている		8 (100%)	医療的ケアが必要な利用者は受入れが出来ない	
	23	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めている		8 (100%)	事業所内での移行時は引き継ぎ、情報共有を行っている。	
	24	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等している		8 (100%)	対象児無し	
	25	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている		8 (100%)	実施される研修には可能な限り参加している。	
	26	放課後児童クラブや児童館との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある		8 (100%)		交流のみを目的とした活動は行っておりませんが、屋外活動で近隣の公園や農園に出かけた際に交流する場面がある。
	27	(地域自立支援)協議会等へ積極的に参加している	8 (100%)		コロナ禍の為、Zoomにて参加している	
	28	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8 (100%)		送迎時に直接出来るだけ細かくその日の様子や反応をお伝えしており連絡帳にも出来るだけ細かく目的も含めて記載している	
	29	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っている		8 (100%)		職員がペアレントトレーニングの研修の機会を設け、実施に向けて検討中。
保護者への説明責任等	30	運営規程、支援の内容、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8 (100%)		契約時に説明を行っている	
	31	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8 (100%)		利用者の来所されていない時間に面談や相談を受け、職員間で話し合い支援方法を考えている	
	32	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8 (100%)		今年度はコロナ禍のため行っていないが年に2回の家族向け勉強会と懇親会を開催している	
	33	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	8 (100%)			
	34	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8 (100%)		ホームページ上で発信を行っている	
	35	個人情報に十分注意している	8 (100%)		鍵付き書庫にて保管している	
	36	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8 (100%)			
	37	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		8 (100%)		農園活動での収穫体験は案内しております。

非常時等の対応	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	8 (100%)			
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8 (100%)			
	40	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8 (100%)			
	41	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している		8 (100%)	身体拘束等の研修を行っている。対象の方がいれば身体拘束等の適正化に取り組む。	
	42	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		8 (100%)	保護者からの情報によりアレルギーを除くおやつを提供している	
	43	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	8 (100%)			